

(令和5年度補正)

地域少子化対策重点推進交付金 実施計画書

(市町村分) 個票

自治体名 **大刀洗町** (都道府県: **福岡県**)  
 本事業の担当部局名 **地域振興課**

事業メニュー	結婚・妊娠・出産・子育てに温かい社会づくり機運醸成事業		
区分	一般メニュー		
関連事業メニュー	3.1.1 男性の家事・育児参画促進、配偶者の出産直後の男性の休暇取得促進		
個別事業名	大刀洗町イクメン創生プロジェクト	新規/継続 (一般財源での実施も含む)	継続
実施期間	令和6年4月1日 ~	令和7年3月31日	事業開始年度 平成 28 年度
対象経費支出予定額 ※(注)1	759,000		円
自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け ※(注)2	<p>(これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題)※全事業共通</p> <p>本町における少子化対策は「大刀洗町総合戦略(大刀洗町“よかまち”創生プロジェクト)」の下、計画的に取組んでいる。これまでの取組をあげると、一般不妊治療費の一部補助や出産前後の支援、保育料や給食費の軽減、就学前から義務教育までの子どもをワンストップで支援するための「子ども課」の創設等がある。</p> <p>しかしながら、この取組みは「子ども」や「母親」が対象となっており、「父親」を対象にした取組みが不足しているところであった。この穴を埋める取組みとして、平成28年度から本事業を行っている。</p> <p>令和2年度に実施した町のアンケート調査では「配偶者(パートナー)の家事・育児参加の満足度」について「満足している」と回答した割合が男性(夫)は59.6%、女性(妻)は14.6%となっている。また、配偶者(パートナー)に家事・育児に「もう少し協力してほしい・もっと協力してほしい」と回答した割合は男性(夫)は4.6%、女性(妻)は31.1%となっており、男性(夫)の家事・育児参加に向けた啓発活動が必要である。</p> <p>(当年度の少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け)</p> <p>&lt;当年度の少子化対策の全体像&gt;※全事業共通</p> <p>前年度は、新型コロナウイルスを考慮して定員上限を低く設定していたが、本年度は上限を引き上げ、多数の応募があっても対応できるよう考慮し、講座を実施した。講座参加者及び申込者からは、『仕事などで子どもと接する機会が年々減ってきているので、機会を設けていただきありがたい。』という声や『本事業はぜひ継続して行ってほしい。』等と言った声が聞かれた。</p> <p>本年度の本事業に関する実施後アンケートでは、『以前よりも家事・育児・地域活動に参加してみたいと思いますか。』という設問にて、90%以上が『以前よりも参加したいと思う』と回答しており、本事業の効果は大きいと考える。</p> <p>&lt;本個別事業の位置付け&gt;</p> <p>「大刀洗町総合戦略(第2期大刀洗“よかまち”創生プロジェクト)」においては、「子どもも親も、共に輝けるようみんなで応援する」ことを少子化対策の基本目標に掲げ、以下3つの基本的方向の下、施策を計画的に実施している。</p> <p>① 出会いから出産までの応援「産みたい」                  出会いから出産までを一体的にサポートし、出生率の向上を図る。</p> <p>② 育む応援「育てたい」                  子育てを行う親のサポートを充実させ、地域で一体となり子どもを育てる仕組みを構築していく。                  「子育てするなら大刀洗町で」と思う人を増加させる。</p> <p>③ 子どもの応援「学びたい」                  学問だけではなく、多種多様な「学びの機会」を提供し、学びの質を向上させる。                  学びたいと考える子どもを後押しする。</p> <p>本事業は上記②に位置づけられる。本事業を実施することにより、男性の子育てや家事への参画をサポートし、家庭や地域での居場所づくりやコミュニティ形成を図っていくことで、地域で一体となり子どもを育てる機運を醸成し、出生数の増加や婚姻数の増加等の少子化対策へとつなげていく。</p> <p>(過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ))</p> <p>本事業の課題は、男性の家事・育児への参画への必要性を広く周知することで子どもを産み育てることへの負担減を図り、地域で子どもを育てる機運を醸成すること、また、回数や開催方法、開催時期、講座内容など工夫をしながら多くの参加者に受講してもらうことである。</p> <p>また、講座中に調理器具などで怪我をするお子さんが多く見受けられた。怪我により、家事・育児に良いイメージが植えつかない可能性があることも課題の一つであると考えている。</p> <p>これらに対する取組みとして、男性の家事・育児参加を促すためには、子育て中(予定含む)の男性が家事や育児の方法や楽しさ、家事・育児を行っている女性の負担を体験することで参画のきっかけを作り、回数や開催方法、開催時期、講座内容など情勢に対応しながら講座を実施する。</p> <p>また、親子で参加している場合、父親がお子さんの怪我を最大限に防ぐことができるようにするための注意喚起と説明を行い、今後、家事や育児を行う上での注意すべき点を重点的に周知する。</p>		

番号	項目	内容	ステップアップ	KPI設定
1	ワークショップ・講演会の実施	家事や育児に参画する男性を増やし、地域が一体となり子どもを育てる機運を醸成することを目的に、子育て中(予定含む)の男性を対象として様々な講座、通称「イクメン養成講座」を実施している。令和5年度は、講座会を4回、講演会を1回行い、令和5年2月時点での総参加者数は65人である。講座の例としては、おうち時間で楽しめる料理教室や親子で親子と一緒に家具づくり講座、夫婦共に参加できる講演会等である。参加対象は町内に居住する新婚夫婦や子育て中(予定含む)の男性(父や祖父、兄弟等を含む)を対象としている。 令和6年度は、講座内容や開催時期を再度考え直し設定することで、より多くのターゲットに意識変革の機会を提供し、地域で一体となって子どもを育てる機運の醸成を図る。実施回数は令和5年度と同様に、講座会を4回、講演会を1回を予定している。 <b>また、本年度は講座中に調理器具等で子どもが怪我をする事があった為、『子供に料理はやはり心配』という声があった。怪我により、家事・育児に良いイメージが植えつかない可能性があることも課題の一つであると考えている為、令和6年度では、男女共同参画についての説明とともに、家事や育児を行う上での注意すべき点を重点的に周知する。</b>	○	○
2				
3				
<p>【次年度以降に向けた事業の方向性】            広報紙やホームページ等の情報発信のみならず、対象者である小学生に直接的に周知ができるよう、各小学校へチラシの配布を依頼する。            また、アンケート結果を活用し、子育て中(予定含む)の男性が受講したい内容について検討し、効果的に実施されるよう見直しを図る。</p> <p>【事業内容を検討する上で参考とした既存事業】</p>				

少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)4 ※全事業共通	KPI項目		単位	目標値	現状値
	合計特殊出生率		%	1.64 (R6)	1.92 (R2)
年少人口の割合		%	14.1 (R6)	15.1 (R5/12/31)	
参考指標 ※(注)5 ※全事業共通	項目		単位	直近の実績	
	合計特殊出生率			1.92 (R2 福岡県保健環境研究所)	
	婚姻件数		件	65 (R3 人口動態調査)	
	婚姻率			4.26 (R3 人口動態調査)	
個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標 ※(注)6	KPI項目		単位	目標値	現状値
	事業内容番号	項目			
		(アウトプット)			
	1	イクメン養成講座の参加者数	人	250	65 (R5現在)
	2	イクメン養成講座の定員達成率	%	90	80.5 (R5現在)
	3				
		(アウトカム)			
	1	※講座においてアンケート調査を実施する			
	2	「イクメン養成講座が良かった」という回答率(満足度)	%	90	96.3 (R5現在)
	3	「以前よりも家事・育児・地域活動に参加したいと思うようになった」という回答率	%	90	92.6 (R5現在)
他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)7	講座の企画や講師選定の際に県からの情報提供等を受けている。また、本町で行う事業の効果を県と共有することで、県だけでなく、他市町村への情報提供にも繋がると考えている。				
民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法 ※(注)8	「子育てに温かい社会づくり」を目指していくうえで、家庭や地域だけでなく、企業や事業所にも本事業の趣旨を十分に理解し、共に推進していくことが必要不可欠である。そのため、商工会や町内企業、保育園や小中学校に対して、本事業への協力・理解を求め、広報の際等に協力を呼びかける。				

(注)

1「対象経費支出予定額」には、本交付金の対象外経費を除いた対象経費支出予定額(補助率を乗じる前の額)を記入すること。また、金額の根拠となる資料(見積書等)を添付すること。

2「自治体における少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け」には、次の①～③を記載すること。ただし、結婚新生活支援事業において、③は記載不要。

①これまでの少子化対策の全体像及びその効果検証から浮かび上がった地域の実情及び課題

②当年度の少子化対策の全体像及びその中での本個別事業の位置付け

③過年度の本個別事業で浮かび上がった課題の分析及びそれに対する取組(ステップアップ)

3「個別事業の内容」には、本個別事業の具体的内容を記載すること。

※個別事業を次年度以降も自立的に発展させるため、事業内容の末尾に必ず次年度以降に向けた事業の方向性を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。

※事業内容を検討する上で参考とした既存事業があれば、都道府県名又は市町村名、事業名を記載すること(結婚新生活支援事業においては記載不要)。

4「少子化対策全体の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」については、自治体の少子化対策全体のKPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体は少なくとも令和6年度終了時点で、各自治体において効果検証を実施すること。

5「参考指標」には、各自治体の合計特殊出生率、婚姻件数、婚姻率を記載すること。

6「個別事業の重要業績評価指標(KPI)及び定量的成果目標」には、自治体における少子化対策の全体像の中での本個別事業の位置付けを踏まえ、KPI及び定量的成果目標を達成予定時期を含め記載すること。また、各自治体において効果検証を実施すること。

※過去に関連する事業を実施している場合は、過去に設定したKPIを踏まえたKPIを設定すること。

※結婚支援センター事業を実施する場合は、参考として直近年度の「会員登録数」「引き合わせ成立者数」「カップル成立組数」「成婚数」を記載すること。

7「他自治体との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を他の都道府県や市町村と連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記載すること。

8「民間事業者との連携・役割分担の考え方及び具体的方法」には、本個別事業を民間事業者との連携のもと実施する場合、その考え方及び具体的方法を記入すること。

積算内訳書

1. 地方自治体名	福岡県大刀洗町		
2. 個別事業名	大刀洗町イキメン創生プロジェクト		
	対象経費支出予定額:	759,000	円

3. 本個別事業に要する費用及びその内訳

No	経費区分	経費区分毎の内訳	総事業費	交付対象事業費	
				交付対象事業費	交付対象外事業費
1	諸謝金	・ 講師謝金 60,000円×6回=360,000円 (R6年講演会1回、講座5回開催予定)	360,000	360,000	
2	旅費	・ 講師旅費 2,500円/回×5回=13,000円 (R6年講演会1回、講座4回開催予定)	13,000	13,000	
3	需用費	・ 消耗品費 24,000円×5回=120,000円 (R6年講演会1回、講座4回開催予定)  ・ チラシ印刷費 ①10円/枚×7,200枚×2回×税=158,400円(2回分、A4片面) ②13.5円/枚×7,200枚×1回×税=106,920円(1回分、A4両面) ①+②=266,000円 (印刷の回数は、R5実績を基に講座・講演会の回数より少ない回数に設定) (7,400枚の内訳 町内保育園・小中学校 約2,000枚、全戸配布約5,300枚、 校区センター等関係各所約70枚、役場・図書館等設置約30枚) (チラシ印刷費は、別添見積書に基づいた額)	386,000	386,000	
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					
計			759,000	759,000	0

(経費区分ごとの合計)

区分	諸謝金	賃金	報償費	旅費	需用費	役務費
総事業費	360,000	0	0	13,000	386,000	0
交付対象事業費	360,000	0	0	13,000	386,000	0
区分	委託料	使用料及び賃借料	備品購入費	負担金	補助金	計
総事業費	0	0	0	0	0	759,000
交付対象事業費	0	0	0	0	0	759,000

(参考)上記のうち、セミナー・イベント等開催時の一人当たりコスト

(単位:円、人)

番号	セミナー・イベント名称	所要額(X)※	参加予定人数(Y)	(参考)過去の同セミナー・イベントの人数	一人当たりコスト(X÷Y)
1	イキメン養成講座	759,000	250	243(R4)	3,036
2					0
3					0

※自治体間連携で事業を実施する場合は、総額の所要額を入力すること。